

新年のごあいさつ



対馬市長

財部 能成



新年あけましておめでとう
ございます。

皆様におかれましては、ご健勝にて穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には日頃から市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

昨年は年明け早々から凶像盗難問題が対馬中を悩ませ怒らせました。大昔から半島が指呼の距離にあり交流があった対馬ゆえの事件だったのかもしれません。この問題解決は外交ルートでの交渉ゆえに、いたずらに返還に時間を費やし過ぎています。国と国ではお互いの面子もありギクシャクし、まどろっこしい限りではあります。早期の解決を望んでいます。しかし、

市民劇団漁火が演じている「対馬物語」のように、国境にある対馬は対馬なりに生き続けなくてはいけないのですから、次なる展開に全力を傾注して対馬の生き方を見つけ出さねばと考えています。

昨年は、対馬にとつて76年ぶりの宮中献穀の栄誉に浴する事業があり、現代の私達が食している白米のルーツと云われ、厳原町豆酸地区において連綿と受け継がれてきた「赤米」を、市民の皆様のお力添えによって、無事献上させていただきました。

ところで、私達の対馬は島外の人達、とりわけ芸術家の方々から絶賛されている事実を市民の皆様はあまりご存知ないのではないかと思ひ、あえてここで紹介させてもらいます。

この対馬に降り立って、「パワーを感じる」「集中力が高まる」「宇宙と繋がっている」「創作意欲がふつと沸き起る」と彼らは表現され、島に生まれ育った私達とは明らかに違う対馬の捉え方をされています。これらの部分は、行政側の資源の見直し部分なのかもしれませんが、定量的にお示しする事ができないものとお正月に免じお許し頂きたく思っています。

資源の磨き直しの観点から昨年11月には福岡に情報発信基地として「よりあい処つしま」をオープン、(一般社団法人)対馬観光物産協会に運営をお願いし、年末まで順調に営業しています。市民の皆様も福岡方面の知人にお声か

け頂き、島全体で可愛がる気運をつくりだしていただければと思います。

島全体と申し上げました。が、昨年末に感動的なお話に接する機会がありました。それは、経営危機に瀕していた団体を再建させた重大な局面の話でした。団体を構成する若い生産者や役員さん方は、どうしようもない状況に陥った経営を刷新するためには莫大な借入金で一度処理しないと財務は好転しないとの判断をされたそうです。しかしその改善策を理解してもらおうの一苦勞あり、「その案が実行可能なはずがない！」等罵倒されながらも説得し続け、次なる段階が待っていました。借入金の保証人として印鑑を押す場面でした。個人資産のありつたけを担保に提供する書面に印鑑を押そうとすると、子どものこと、両親の顔が走馬灯のように流れ、印鑑を持つ手が震えたそうです。しかし自分達の背後には対馬という資源が担保として控えていると考え、落ち着いて印を押せた。その後個人資産を放棄しても、との気概ある行動に団体構成の方々が同調され7年近く歯を

食いしばって頑張り完済されたそうです。その団体の若い人たちは試練に立ち向かった先輩たちを身近で学んできているからなのでしょう。団結力・行動力が際立っています。

私はこの話を聞き、役員さん達の気概もさることながら最後の抛り所は「資源への確信」だったのだと感じました。資源に対する畏敬とそこに裏打ちされた確信を持ち合わせて私たちは日頃行動しているのか、改めて考え直さねばと感じました。

昨年は日本中の有名食品店などで偽装食品が出回り謝罪の嵐でした。私たちはこの時だからこそ、胸を張り声を大にして「本物は対馬にあり」と叫んでも恥ずかしくないはず。日本にとつての本物を実感・体感してもらうためにも、今こそ対馬を積極的に売り込む絶好の時だと年頭から感じています。

さて、対馬市は6町合併から3月1日で満10年を迎えます。10年の間、市民の皆様には大変なご苦勞をおかけしたと反省しています。合併当時から財政状況が全国でも最下位に等しい自治体として「対馬」は名を馳せていました。

その状況から脱するため10年間だったと言っても過言ではありません。しかし、市民の皆様のおかげで現時点では赤字再建団体へ転落しない段階まで来たと思えます。このことは専ら市民の皆様のご理解と併せて多大なる迷惑と負担

を強いることの裏返しであった事は十分に認識しています。これからの10年の方向性を市民の皆様と共有していく為、本年より2ヶ年をかけた総合計画策定に着手する予定です。皆様の積極的参画を期待しています。なお、3月1

日には市制施行10周年記念式典を行います。子どもたちの協力を仰ぎながら多世代で式典を盛り上げて頂ければと考えています。結びに本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げます。

は、真珠取引額等で若干上向き傾向が見られるものの、総体的な水揚げ量の減少と魚価の低迷、燃油高騰の影響により壊滅的な打撃を受けております。一方、有効求人倍率は0.82と直近の数値は合併時の3倍を示しておりますが、長年の雇用環境の悪化により過疎化の進行をくい止める所へまで至っていない状況です。又、国境離島であるが故の様々な難題も多く、対馬が宝の島であることがややもすれば忘れ去られようとしていま

は、全国離島振興市町村議会議長会での特別決議の採択など、その可能性が現実化してきたものと感じ取っております。対馬市議会におきましても、7月の定例会で設置いたしました2つの特別委員会、特に国境離島活性化対策特別委員会は、この法案制定に向け、昨年の10月には、27名の国会議員に対する要望活動を実施いたしました。今後につきましても更なる活動の活性化を期待いたします。又、国県道路等整備促進特別委員会につきましても、島の活性化の基盤である、国県道路・離島航路の整備に向け積極的に取り組みを実施している状況です。

新年のごあいさつ



対馬市議会議長

作元 義文



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、平成26年の新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。年頭にあたり市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日頃から市政及び議会活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は富士山の世界

遺産登録や2020年東京オリンピックの開催決定、又、7月の衆議院議員選挙による6年ぶりのねじれ現象の解決と、日本にとつても大きなターニングポイントの年でもありました。私たち、対馬市議会も、5月の一般選挙において、市民の皆様の絶大なご支持を受け、新たに議員21名で、6月より活動を始めたところであります。6月7日の初議会（臨時会）において、正副議長を選出、3常任委員会、議会運営委員会など

の議会構成を決定し、これまで定例会3回、臨時会2回の開催と、提案された議案について慎重に審査を進め、市長部局と一体になって、対馬市の活性化のための議論を続けてまいりました。3常任委員会も各地域の実情を細かく理解すべく、自ら足を運んで所管事務調査を精力的に実施し、それぞれの専任重要課題に積極的に取り組んでいるところであります。

対馬市の現状を顧みますと、基幹産業である水産業

は、全国離島振興市町村議会議長会での特別決議の採択など、その可能性が現実化してきたものと感じ取っております。対馬市議会におきましても、7月の定例会で設置いたしました2つの特別委員会、特に国境離島活性化対策特別委員会は、この法案制定に向け、昨年の10月には、27名の国会議員に対する要望活動を実施いたしました。今後につきましても更なる活動の活性化を期待いたします。又、国県道路等整備促進特別委員会につきましても、島の活性化の基盤である、国県道路・離島航路の整備に向け積極的に取り組みを実施している状況です。